

114  
A 4415



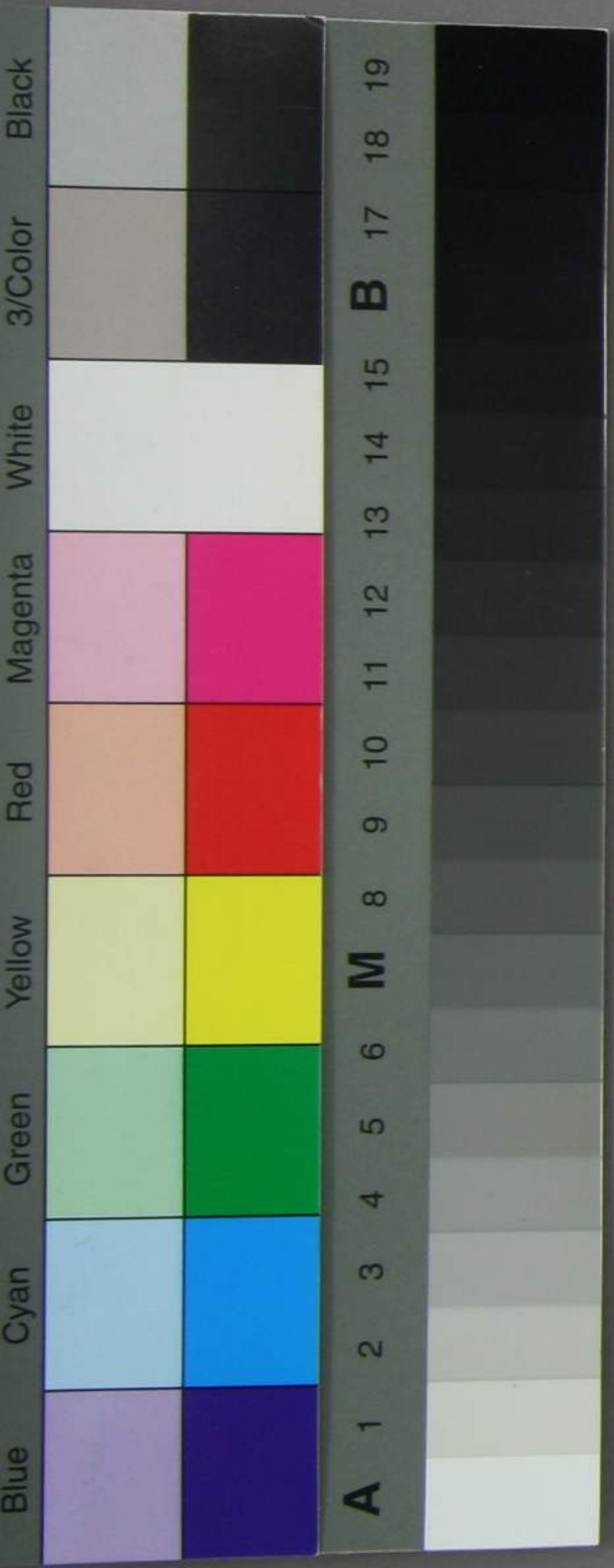
紙啓上致候然ハ拙者覺書第四十八号前篇  
ノ一分丈出来致候ニ付送呈仕候間貴意ニ任カ  
セ及譯者ハ御附與被下度残りソ分ハ明後日ヨ  
リ五日間ニ差進可申候謹言

六月三十日

李仙得

平升様

121  
A 4445



第四十八号覚書

大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄贈

第一章



上ヨリ之ヲ觀ルモ方今日本国政家ノ釋解ス可  
キ最重要ナル疑團ノ一ニシテ魯西亞ノ圖計ヲ  
預防シテ国ヲ康カラシムル護國ノ策モ目今日  
本國ノ日進変更スルノ際容易ニ看過コス可カ  
ラサル富國ノ策モ共ニ皆此疑團中ニ包含ス故  
ニ余ハ此ニ着眼シ嘗テ第四十二号覚書ヲ以テ

専ラカリフアルニア又ハ支那本邦ノ支那人ノ勸  
奨シ蝦夷地ニ未住セシムルノ良策タルヲ建言  
セシカ又退テ熟思スルニ此策ハ僅カニ右ノ大  
疑團ヲ半バ釋解スルニ過キヌレテ到底完全ノ  
者ニアラサル可キヲ信セリ依テ此ニ其理ヲ述  
フルニ蓋シ支那人ヲシテ蝦夷ニ未住セシムル  
時ハ必ス其島ノ財源ヲ十分ニ開發スルノ成績  
アル可ク元來支那人ハ其如何ナル地ニ至ルヲ  
論セス農業開礦貿易等ニ勉勵シ以テ爾餘ノ人  
種ノ行ヒ難ク且ツ無益ナリト思ヒ拋棄ス可キ

事業ヲ容易ニ成就シテ其利ヲ納ムルニ長セリ  
試ニ見ヨ瓜哇及ヒ臺灣二島ノ如キハ元ト荒  
蕪ノ地タレ氏支那人ノ勉勵ニ因リ一変シテ豊  
野肥田トナリ又支那人ハカリフアルニア及ヒヲ  
ウストラリアノ二地ニ於ケルモ他國ノ熟鍊ヲ  
極ムル礦山家ノ既ニ掘リ尽クシタリト思フテ  
打棄テシ合金沙田ヲ穿テ大利ヲ獲又支那自國  
ノ外國貿易ノ如キハ歐米人ノ為メ百年猶餘ノ  
時間獨リ其利ヲ占メラレシモ近頃ニ至テハ支  
那人漸々其外國貿易ノ利ヲ己レニ納ムル及

ベリ而ノ支那人ノ能ク此等ノ事業ヲ成就シ得  
タルハ其熟鍊巧妙ナルニ因ルニアラス其家食  
住ノ需要寡キカ為メ其費用ヲ省減スルヲ得テ  
貯蓄ノ便ヲ増スニ因レリ故ニ支那人ハ此天授  
ノ性ヲ有スルカ為メ平時ノ職業ヲ為スニ付テ  
ハ爾餘ノ人種ニ優レルト寡ナカラスト雖モ戰  
鬪ニ從事スルノ能力ハ之レカ為メ大ニ減シ而  
メ其然ル所以ハ支那人ノ剛氣ナキニハ在ラス  
唯其靜謐安息ヲ貴ムノ最モ過度ニ在リテ蓋シ  
靜謐安息ハ戰時ニ於テ能ク之ヲ保テ得可カラ

サル者タルニ支那人ノ之ヲ貴ミ之ヲ得ント欲  
スルノ過度ナルカ為メ間々名譽ヲ棄テ本心ニ  
反キ報國志ヲ失フニ至リ且ツ一戰場ニ於テ靜  
謐安息ヲ失セシヨリ寧ろ折屈シテ之ヲ保有ス  
ルヲ欲シ之レカ為メ躊躇セシテ外國ノ統制  
ニ服從セシト古未敢テ稀ナリトセス  
斯ク自國土地ノ自由ニ頓著セサル人種ハ況ン  
ヤ之ニ任スルニ他國ノ土地ヲ防禦スルノ務ヲ  
以テス可カラサルハ必然ニシテ支那人ハ之ヲ  
蝦夷地ニ移シ以テ日本ノ北方魯國ノ侵寇ヲ防

カシタルヲ猶中古ニ於テ匈牙利人カ土耳其人  
ノ歐洲ニ未寇スルヲ遮リ終ニ土耳其人ヲシテ  
其歐洲ノ地ヲ畧スルヲ制セシメタルカ如キ氣  
力ハ到底之レナキヲ明白ナリ

右ノ次第ニ付キ以テ考慮スルニ蝦夷地ニ未住  
セシム可キ支那人種ニ日本人種ヲ混合セシム  
ル時ハ支那人種ニ固有ナル瑾瑕ヲ除去スル  
ヲ得可ク而シテ此論説ハ想像幻空ノ者ニアラ  
スレテ既ニ英、仏、日、支那、日本等各国人種ノ互ニ  
混合シタルニ因リ其國ノ為ノ幸福ヲ生セシメ

タルハ敢テ疑ヒテ容レヌ

英人ノ如キハ固トヨリ其地ノ土人ニアラス  
シテ原来此國ニ住セシ人民ハ曖昧トシテ識  
ル能ハサル太古ノ時歐洲ノ東隅ヨリ日耳曼  
海ヲ越ヘテ侵入シ来リシカムブリアン人種  
ノ為メニ壓制セラレテ之ト混合シ次キニケ  
ユウトンニツク種ノ一部タルコランアン人英  
國ニ渡来シ次キニ羅馬人其將シユリユウスシ  
ーサルノ命ヲ受ケテアレント州ノ東海岸ニ上  
陸シ國ノ一分ヲ畧シ次キニ日耳曼種ノ一タ

ルサクソン人來テ英國ニ住シ次キニアング  
ル人バルチック海ヨリ來リ次キニアングロ、サ  
クソン人ト其種ヲ同ウスルデーン人來住シ  
最終ニフランク人並ニ那威瑞典ヨリ起リシ  
ノルマン人英國ニ侵寇セリ偕又仏蘭西人ハ  
其人種ノ混合シタル數頗ル夥多ナレハ此ニ  
悉ク之ヲ枚挙スル能ハス依テ其中最モ重立  
チタル者ヲ挙クルニイベール、ガエル、亞細亞  
ノギムリ、フエニシア、羅馬等ノ各人種是レ  
ナリ又日耳曼人ノ初メテ羅馬人ト相接セシ

時ハ其土地ノ土人ト嘗テ亞細亞洲ヨリ來リ  
シ人種ト混合セシ人種ニシテ其証ハ近世ノ  
日耳曼語ト三千三百年以前印度ニテ用ヒシ  
完全ナルサンスクリット語ト相似タルヲ以テ  
之ヲ看ルヘシ其他歐洲各人種モ其混合セ  
シト皆此ノ如シ

又亞細亞洲ノニニ就キ之ヲ言フモチンリンノ  
エウ、チ人及ヒウツン人キアン、クアン即チハカ  
ス人並ニチユウリ人等、支那ニ來住シタルニ  
因リ數省ノ人民ニ弒ヒ消ス可カラサル人極混

合ノ跡ヲ遺シ依テ以テ其人民ノ心神身体ニ能  
カヲ改良シタレハ即カラ原末ノ土人ニ優リ容  
易ニ之ヲ壓服スルヲ得ルニ至ラシメタリ

ユウチ及ヒウソクノ二人種ハ黄河ノ北戈壁  
ノ沙漠ニ接スル地ニ住シタル者ナリ蓋シ其  
中ウソク人ハ漢朝史記ノ解明者ウエシシ  
コウカ説ニ其皮ハ白色其鬚ハ赤色其眼ハ藍  
色ナリト言ヘリ(ヒュムボルト氏ノ亞細亞記  
第一卷第三百九十三葉ニ見ユ)

ハカス人種ノ其身長甚ク高ク其髪ハ赤色其

面ハ白色其眼ハ綠色又ハ藍色ナリト言フ蓋  
シ此人種ハ西洋紀元前九十七年即チ和帝ノ  
第八年ニ支那元帥シリシノ兵ト混合シタリ  
(リットル氏ノ地誌中亞細亞ノ部第一卷第十  
百十五葉ニ見ユ)

又ヒュムボルト氏ノ亞細亞記第二卷第六十  
四葉ニ曰ク支那人ハ其体格ノ大ニ己レト異  
ナレルアリアシ人種ヲ総称シテ「長キ馬面」ノ  
人ト言ヘリ

又書經ニ白人種ノ支那ニ來住セシヲ証明シ

テ曰ク帝曰ク云々

皋陶蠻夷猾夏無怠無荒四克來王

又本文中支那原來ノ土人ト稱スル者ハ即チ  
書經ニ記スル苗民ナル者ナリ

而シテ又福建及シテ廣東兩省人民ノ他省ノ人民ニ  
比スレハ更ニ技藝ニ巧シニシテ其業ニ勉勵シ  
且ツ事ヲ企ツルヲ好シテ其論說モ亦頗ル寬大  
ナル所以ハ福建ノ人民ニハヒンドスタニー及  
ヒマレー人種ノ混合シテ廣東ノ人民ニハハカ人  
種ノ混合シタルニ因ルナル可シ然リ而シテ人種

變更ノ最モ確固タル明証(其確固タル所以ハ方  
今日本ノ迹地ニ於テ我輩ノ眼前ニ其變更ノ進  
ミ行クヲ見ルニ在リ)今ヲ去ル僅カニ數十年以  
前廣東省ヨリ台湾ニ移住セシハカ人種ノ其島  
土人ノ女ト婚シテ峯ケタル子孫ヲ以テ之ヲ觀  
ル可ク蓋シ其子孫ハ此島ノ支那人又ハ其男子  
ハ純粹ノ支那種タル支那植民地ノ雜人種ニ比  
スレハ其工藝、農業、貿易等ニ長シ並ニ丈夫ニ  
合ヒタル剛勇ノ性質ヲ具フルト遙カニ其右ニ  
出ツル者タリ



支那政府ハ台湾ニ住スルハカ人種ノ勢力漸  
進スルヲ觀テ頗ル之ヲ慮シ殊ニ同政府ハ  
往キニ右ハカ人種祖先ノ段威強剛ナルヲ忌  
シテ之ヲ廣東省ヨリ逐出セシ如ク方今ハ其  
人種ヲ台湾ヨリ逐出ス能ハサルヲ悟リタシ  
ハ愈々其慮念ヲ増シ之レカ為台湾府ニ  
在ル地方政府ニハカ人種ノ酋長ヲ参加セシ  
ノ之ニ相当ノ等級ヲ與ヘテ以テ其人種ヲ懷  
ケント謀レリ

然レ氏斯ク人種ノ混合ニルニ因リ其改良スル  
ニ至ルハ数多ク歲月ヲ要ス可ク因テ余ハ第四  
十二号覚書ニ蝦夷地ニ於テ兵士ノ屯田ヲ設ケ  
以テ植民及ヒ人種改良ノ漸々進歩スル際島ノ  
防衛ニ備ヘントスルノ良策タルヲ載セ 然  
レトモ其屯田ヲ設ケ置クニハ夥多ノ費用ヲ要  
ス可ク若シ敢テ國ノ利益安寧ヲ害セサル限  
内ハ務メテ其費用ヲ減省スヘキノ道理甚ク  
多シ

右ノ次第ニ因リ我輩財カラ歐洲ヲ回顧スルニ  
至リシカ歐洲ノ人種ハ平時並ニ戰時ノ術藝ニ  
長セシ者ヲ夥多ナリトシ其地ヨリ人民ノ移住  
ヲ勸奨スル時ハ支那人ノ未住ヲ勸奨スルヨリ  
モ其益更ニ大ナル可ク加之合衆國ノ植民史ニ  
就キ以テ之ヲ觀ル時ハ歐羅巴人種ハ其行如テ  
ル地ニ移ルヲ論セス必ス其地ニ於テ増産シ此  
ニ永住スルノ奇價アリ然リト雖モ西洋各國人  
日本方今ノ司法制度ヲ忌ムニ因リ縱令其地  
地ニ未テ住居スルヲ許ルスモ夫ノ領地外ノ權

利ヲ與フルニ非レハ恐クハ其許ルシヲ得タル  
機會ニ乘シテ未住スル者ナカル可ク是レ亦一  
箇ノ障礙ナリト雖モ日本ハ固トヨリ夫ノ領地  
外ノ權利ヲ許認セサルヲ良策トシ縱令十八百  
七十三年ノ未ヲノレトブルジョン、エ、ビンガム氏  
カ建言セシ巧妙ニ似テ行ハレ難ク後和ナル体  
裁ノ領地外ノ權利ト雖モ亦日本ニ於テハ之ヲ  
許認セサルヲ良トス是ニ於テカ夫ノ蝦夷地植  
民ノ疑團ハ到底之ヲ釋解ス可カラサル一大障  
礙ニ出逢ヒタルカ如シ然ルニ此ニ一箇ノ章ト

謂フ可キハ歐洲ヨリ合衆國ニ未住セシ人民中  
ニテウター部ニ住スル者ハ獨リ他ノ人民ト其  
景況ヲ異ニシ蝦夷地植民ノ主眼ヲ違スルニ之  
ヲ用ヒ得可シ想ハル、ニ在リテ蓋シウター部  
ノ人民ハ合衆國ノ領地内ニ於テ其社會ノ制度  
ヲ保持スルニ付キ頻リニ抵抗ヲ受ケ之レカ為  
ノ常ニ危難ニ罹リテ其心ヲ安スル能ハサレ  
目今ニ至テハ歐羅巴ヨリウターノ地ニ移住ス  
ル者ナキニ及ヒシノミナラス既ニ多年此地ニ  
住スル者ト虽モ更ニ款待ノ厚キ地ニ移住スル

ヲ期望スルニスベリ然レ而メ合衆國ニ於テハ  
斯クウターノ人民ヲ惡ムト雖モ日本ニ於テハ  
其疾惡ノ原因ニ感テ同ウスルノ要ナク且ツウ  
ターノ人民蝦夷地未住ヲ願フ時若シ之レ許ナ  
ハ自國ノ為ノ害ヲ生ス可キ旨ヲ慮スルノ要  
ナク加之ウターノ人民ハ植民ノ業ヲ為サレム  
ルニ付テハ爾餘ノ人民ニ勝レ而メ其人民ハ人  
口五万以上ニ及ヘル社中ヲ為シ其信奉スル法  
教ノ名モルモニスルニ依リ世人之ヲ称レテモ  
ルモ人ト言ヘルカ蓋シ此法教ハ千八百三十

年初ノテ米利堅ニ起リ凡ソ此教徒ハジヨ―セ  
フ、ス、シ、ス、ナル者新克邦ヲンタリヲ郡マンチエス  
トル邑ニ接セシ地ニ於テ初メテ此教ノ天啓ヲ  
得タル旨ヲ信スト雖モ其委細ノ景況ハ今又敢  
テ此ニ贅ヒス

下ノ……葉ニ載スル表ヲ参考スヘシ  
此天啓ハ黄金色ヲ帯ヒレ古キ巧妙ナリ製造  
ノ金物ノ板ヲ神使ヨリスシスニ渡シタルニ  
因レリト言フ而メスシスハ神ノ特恩ニ因リ  
其板ノ文字ヲ解スルヲ得テ之ヲ寫シ取リタ

ル上其板ヲ神使ニ還シ其後右ノ寫シヲ新克  
府ノ学士アントン氏ニ示セシカ同氏ハ之ヲ  
評シ其文字ハ希臘字希伯来字及ヒ尔餘ノ文  
字ノ混合ニシテ未熟或ハ故意ニ因リ多少其  
文字ヲ誤リ且ツ其文字中ニ或ハ半月影或ハ  
星影或ハ尔餘ノ品物ノ雜画ヲ混入シ其結尾  
ハ墨是可國獸帶ノ粗末ナル繪圖ナリト云ヘ  
リ

諸我輩ノ此モルモシ教ヲ考究スルニ当リ先ツ  
第一ニ我カ心ニ感スルハ其教祖ノ試験及ヒ論

説、馬哈麥ト相似タル事ニ在リテ米利堅ノ聖  
人ハ亞刺比亞ノ靈語者ト同レク猶太教徒ノ經  
典及耶蘇教ノ新約全書中ニ載スル預言數箇ヲ  
已レニ適用レ一時ハ馬哈麥ノ轍ヲ踏ムノ甚シ  
キニ因リ其教徒中ノ重立チタル輩ヨリ君主ノ  
権力ヲ掌握セント希望スルノ誹リヲ被ヒ及  
ヒシカスシス及ヒ其嗣者ハ蓋シ之ヲ觀テ早ク  
自カラ戒メ其後ハ天援ノ職務ト其職務ヨリ自  
然生シ来レル世権トヲ以テ自カラ足レリト為  
レ以前ニ比スレハ稍々遜讓シテ其事業ヲ執行

ヒシカ嘗テ馬哈麥カ其威カヲ握ルニ付キ發シ  
タル智慧ト先見トノ二者ハ決シテ之ヲ遺失ス  
ルトナク馬哈麥ト同レク數妻ヲ娶ルト經典ノ  
説ニ述時ノ天啟ヲ折衷ムルトヲ以テ其法教ノ  
基礎ト為シタリ  
スシス及ヒ其嗣者ハ貞潔ヲ貴重スルノ説ヲ  
棄テ馬哈麥及ヒ日本ノ立法者家康ノ如ク婚  
姻ハ人類天然ノ有様ナルヲ辨シ家康ノ遺言  
第四十六章ヲ見ル可シ殊ニ法教ノ為ノ死ス  
ル者或ハ勝利ノ榮譽ヲ得タル者ハ未未ノ樂

男ニ於テ婦女ノ放縱ナル歡娛ヲ享クヘキヲ  
約セシカ教妻ヲ娶ル制度ノ回々教及ヒモル  
モ此教ヲ確固タラシムル大威力ハ一方ハ亞  
細亞洲ニ於ケル回々教ノ進歩又一方ハ亞米  
利加洲ニ於ケルモルモ此教ノ進歩ヲ考究ス  
ル者ノ為メ一日瞭然タル可シ蓋シ馬哈麥ハ  
後者及ヒヨルセフスミスノ後者等カ夥多  
ノ眷族ヲ設ケタルニ因リ爾餘ノ法教ヲ奉ス  
ル人民ニ於テハ人生教代ニシテ漸ク成就ス  
可キ事柄ヲ僅カ数年ヲ出テスレテ成就スル

ヲ得セシメノリ

斯クスミス及ヒ其嗣者ハ古昔ノ猶太教ノ靈言  
者ヲ再起セシメタリト虽モ畢竟之ヲ以テ已レ  
カ一時ノ支柱ト為スニ過キレテ決レテ經典ヲ  
以テ其教訓ノ有一無二ノ基本ト為スタメニア  
ラス而メ馬哈麥ハ「哥蘭」ノ書ニ其後者ノ信奉ス  
可キ確然動カス可カラサル法則ヲ定メタレド  
ジヨルセフスミスノ智畧ハ一層之モ優リテ其  
時ノ所要ニ隨ヒ其教誨ヲ適宜ニ更改セサル可  
カラサルヲ思ヒ嘗テ其言ニ「余等ハ經典ノ反訳

ニ。誤謬アラサル限内ハ其上帝ノ語タルヲ信シ  
又モルモシノ書モ等シク上帝ノ語タルヲ信ス  
ト謂ヒタレハ之ニ因リ日後若シ其教ヲ改ム可  
キ時勢ニ至ル時ハ如何ナル変更タリ氏之ヲ為  
シ得可キノ餘地ヲ設ケタリ而メスミスハ人情  
ノ最モ激烈ナル發動カラ斯ク巧ニ其天啟ノ  
新理ニ吻合セシメタレハ其新理ノ凡ソ何事ニ  
限ラス之ヲ適用シ得可キハ恰モ易經中伏羲ノ  
八卦ト同シク而メモルモシ教ハ孔子ノ教ト同  
シク敢テ將來ヲ震慮スルノ患ナレ

「モルモシ」教徒ハ斯ク將來ヲ震慮スルノ患アラ  
サレハ漸ニ其住居ヲ定ム可キ地ヲ搜索スルニ  
勉メシカ初メノ程ハ古昔ノ耶蘇教傳法師ノ如  
ク一ノ金囊或ハ食袋ヲ携ユルヲテク此村ヨリ  
彼村ニ轉シ此府ヨリ彼府ニ移リテ或ハ大道ニ  
於テ其教法ヲ説キ或溝壇ニ上リ或ハ火邊ニ坐  
シテ其道ヲ播キ其好機會ヲ得シ毎ニ左ノ歌ヲ  
謡ヒタリ曰ク

神ノ靈氣ハ其燃ルエルト火ノ如ク  
最終日ノ榮誉ハ將サニ来ラントス

故昔ノ想像幸福ハ更ニ之ヲ見ルニ道ク

神使ハ来テ此地ヲ訪問セシ

我輩ハ天兵ト共ニ謡唱喚呼シテ

上帝及ヒ羊仔ニ向ヒ「ホサニナ」「ホサニナ」

ノ頌詞ヲ述フ可シ

嗚呼上帝ト羊仔トニハ至高ノ榮誉アリ

ンコヲ

将来常久我カ希願スル所ナリ、々々々々々々

蓋シ右数詞ノ解シ難キハ之ヲ傍聴スル者ノ心

ナラス新タニ「モルモン」教ニ入りタル者ニ於ケ

ルモ亦斯クノ如シト虽モ世上ノ痛苦憂悶ニ迫

レル人民ハ切ニ其心ヲ慰安スルヲ希望スルカ

故ニ此現在ノ世ニ於テ更ニ幸福安康ノ景状ヲ

約スル法教ハ必ズ其信奉者アルニ疑ナク而シテ

「モルモン」ノ歌ハ其詳細ニ至テハ固トヨリ曖昧

タルヲ免レスト虽モ要スルニ其大旨ハ世人ノ

多年期望セシ經典中ニ約スル所ノ慰安康福ノ

日ノ將ニ来ラントスルヲ廣告スルニ在レハ世

人其義意ヲ了解シテ之ヲ信奉スル者敢テ寡ナ

カラス



ジヨ―セフスミスハ「モルモン」教徒進行遍歴ノ  
遂ニ終テ其居ヲ定ム可キ地ヲ指定ノサリシカ  
想フニスミスハ故ラ其地ヲ人ニ語ラサリシナ  
レ可ク而ノ同氏ハ最終ノ期日ニ至リ必スニユ  
ウ、ゼリユサレムノ其都ヲ造ル可キ者ヲ常ニ人ニ  
告ケタレ其ニユウ、ゼリユサレムノ都ハ何レノ  
地ニ設ク可キヤ敢テ告クルトナク而メ又斯ク  
曖昧不定ノ景状ヲ承認スルヲ要スル法教ノ如  
キハ能ク其理ヲ解シ得ル者實ニ僅カク過キサ  
レ氏「モルモン」教徒中ニハ嘗テ千八百三十年四

月六日ヨリ千八百四十七年七月廿四日ニ至ル  
迄二十七年間ニ十七年ハ十  
七年ノ誤歟所々ヲ遍歴シ初  
ハ新克邦ノ「ファエツト郡」ヨリヲハイヲ邦ノキ  
ル「クランド」ニ移リ次キニ「ソウウ」邦ノゼキ  
ソン郡ニ轉シ又次ニ「イリノワ」邦ノノウブウニ  
移リ最終ニ「ロツキイ山中」ニ轉シタルノ際其法  
教ノ理ヲ解シテ之確信セシ輩又寡ナカラス然  
リ而メ「モルモン」教徒ノ其目的ヲ達スルニ固執  
シタルハ上文ニ記セルカ如クナレハ漸ニ其結  
果ヲ生シ「問々」野獸ノ如ク驅逐殺戮セラレテ常

ニ残虐ノ處置ヲ被リ其依頼スル所ハ僅カニ其  
職務ノ天ヨリ授カリタルヲ信スルニ過ヤト  
虽モ一步毎ニ次第ニ殷盛富饒ヲ増シテ其威力  
ヲ擴張シ終ニウター部ニ至リテ初メノ程ハ人  
カニ能ク企テ及ホス可カラスト思ハル、事業  
ヲ成就シ現ニ荒蕪ノ地ニ克チ僅カニ十八年ヲ  
出テスレテ是レ這人ノ知<sup>ラ</sup>サル荒地ノ一変シ  
テ幾モナク数百万ノ生員ヲ養フニ足り且ツ米  
利堅共和國功業ノ中ニ就キ最秀絶タル可キノ  
望アル膏腴ノ地ト為スニ至レリ依テ想フニ法

教ノ鼓動力ノ為ノ其心ヲ獎勵セラレサル人民  
ノ夫ノモルモン<sup>ト</sup>教徒ト等シク<sup>源</sup>曠野蕪地ヲ遍歴  
シテ之ヲ開墾スルニ多年粉骨碎身スルヲ得タ  
ルヤ否願ル疑ハシ然レモ<sup>ル</sup>モン<sup>ト</sup>教徒ハ現ニ  
其信仰ノ力ニ因リ右ノ大業ヲ成就セシカ是レ  
蓋シ神聖ノ意ニ出ツル所ニシテ全能ナル上帝  
ノモルモン<sup>ト</sup>教徒ヲ用ヒテ以テ米利堅ニ利ヒ世  
界ニ益セシト言フモ敢テ不當ナリトセス

夫ノ諺ニ言ヘル如ク人種ノ善惡ヲ判断スルニ  
其事業ヲ以テス可キ一猶各人ノ智恵ヲ判断ス  
ルニ其事業ヲ以テス可キト同一ナリトセハ最  
新最正ノ官報ヨリ編纂セル左ノ表ニ就キ前文  
ニ記セルモルモシテ教後ノ勉業精氣ノ説ハ敢テ  
其实ニ過クル者ニアラワルヲ明白ニ了解スル  
ヲ得可シ

富、税、并、公債

公債		局所税				價					
其他一切	公債証書ナキモノ	其他一切	公債証書アルモノ	惣數	市、村等	郡	國	不動産、動産ノ價	納税不動産ノ價	納税動産ノ價	納税不動産ノ價
千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千
				一六七、三五	四七、五三四	八〇、四九	三九、四〇二	二、五九、九五	三、五五、八三	五五七、九六	七、〇〇、八一

茲ニ説ク可キコトアリウケル  
 ハ善ク國內ニ自國ノ産物ノ  
 融通シ錢道并ニ馬車ノ交通  
 ヲ善クシ公債ヲ以テ自ラ苦  
 ムナク方今世界中無類ノ  
 開化國ト稱スヘキモノナリ

羊并 = 羊毛

均平	羊	羊	羊	羊
一八七。	一八七。	一八七。	一八七。	一八七。
一八七。	一八七。	一八七。	一八七。	一八七。
一八七。	一八七。	一八七。	一八七。	一八七。
一八七。	一八七。	一八七。	一八七。	一八七。

馬并 = 牛

牛			馬		
一八五。	一八六。	一八七。	一八五。	一八六。	一八七。
牧場	牧場	牧場	牧場	牧場	牧場
一三、六一六	九、八七五	三、四、九四	二、四二九	一、四〇〇	四、五六五

〔甲〕千八百五  
十年ハ  
牧場ニア  
ラスシテ  
馬或ハ  
牛ノ數ヲ  
定ムル企  
テアラサ  
リシ

耕作ノ所産

地面、家畜、産物、等	草種	忽布	亞麻	甘蔗糖蜜	蠟	蜜
一八七。	三二二	一。	六、七、四、六、六	一三	五七五	一。
一八六。	五四五	四、三、四、三	二五、四、七、五			
一八五。	一。	五五〇				

喜麥	大麥	蕎麥	燕麦	粟	黍	稷	高粱
一、一、二、八	四、一、二、〇、一	六、五、五、五、五	一、八、三、二、二	一、四、〇、五、八、六	五、四、二、四、八、六	三、八、四、八、五、二	一、〇、二、九、〇、七
四、一、八、八	六、五、五、五、五	六、三、三、二、一	一、四、〇、五、八、六	五、四、二、四、八、六	三、八、四、八、五、二	一、〇、二、九、〇、七	一、〇、二、九、〇、七

耕作ノ所産

地面、家畜、産物、等	一八七〇	一八六〇	一八五〇
開墾シタル畑地ノアケル地數	一一八、七五五	七七、二一九	一六、三三三
森林及々他ノ開墾モタル地	二九、六〇六	一二、六九二	三〇、五一六
畑ノ正金ノ價	二、二九七、九二二	一、三三三、五五五	三一、七九九
耕具ノ價	二九一、三九〇	二四二、八八九	八四、二八八
菓木園ノ産物	四三、九三八	九、二八一	
菜園ノ産物	八、七〇〇	九、八三〇	二、三八八
森ノ産物	八〇〇		
國內製造物ノ價	五六、八九一	六六、八五一	一、三九二
屠リタル或ハ屠者ニ賣渡シタル獸肉ノ價	一七二、三八二	二四四、八六二	六七、九八五
生畜ノ價	二、二四九、七〇七	一、五一六、七〇七	五四六、九六八
馬ノ數	一一、〇六八	四、五六五	二、四八九
騾并ニ驢ノ數	二、八七九	五、五一	三、二二五
採乳牛ノ數	一七、五六三	一一、九六七	四、八六一
使役スル牛ノ數	三、四七九	九、一六八	五、二六六
他ノ家畜	一八、一三八	一二、九五九	二、四八九
羊ノ數	五九、六七二	三七、三三二	三、二六二
豚ノ數	三、一五〇	六、七〇七	九、一四
春麥	五、四三、四八七	三、八四、八九二	一〇七、七〇二
冬麥	一四、九八六		
裸麥	一、三二二	七、五四	二、一一
玉蜀黍	九五、五五七	九〇、四八二	九、八九九
燕麥	六五、六五〇	六三、二一一	一〇、九〇〇
大麥	四九、一一七	九、九七六	一、七九九
蕎麥	一七八	六八	三、三二
木棉	二二	一、三六	
羊毛	一〇、九、一一八	七、四、七六五	九、二二二
豌豆并ニ蚕豆	九、二九一	二、五、三五	二、八九
馬鈴薯	三、三、六四五	一、四、一〇〇	四、三、九六八
甘藷	一六三		六〇
葡萄酒	三、一、三一	六〇	
牛酪	三、一〇、三三五	三、一六、〇四六	八、三、三〇九
乾酪	六九、六〇三	五、三、三三一	三〇、九九八
賣却シタル牛乳	一一、二四〇		
干草	二七、三〇五	一九、二三五	四、八〇五
草種	五	一四九	
忽布	三、三二	五四五	五〇
亞麻	一〇	四、三四三	五五〇
甘蔗糖蜜	六、七、四六六	二、五、四七五	五八
蠟	一三		
蜜	五、七、五		一〇

八五	八六	八七	八八
牧場	牧場	牧場	牧場
二四、九四	九、八七五	一二、六一六	
リ	テ	ア	ラ



製造物ノ惣表紀

箇所	一八七。	一八六。	一八五。
蒸氣器械ノ數	五三三	一四八	四
今上馬力	二一		
水車ノ數	三三一		
今上馬力	一九二		
工手ノ惣數	二一六九		
男工	一五三四	三八九	五一
女工	一四八五	三八。	五一
資本	一三九一、八九八	四四三、三五六	四四、四。
備料	二九五、三六五	二二一、七。	九、九八四
材料	一、二三八、二五二	四三九、五一二	三二七、三八一
所産	三、三四三、一九	九〇、一五三	二九六、二二。

百科製造物ノ惣表紀

錫銅錢板	六	四	八	六	六	三	六六。	三。	二七二一	八、二九。
車造リ	九	五	八	一	一	一	一三八七五	七、七七五	一、二、四七五	二七、三五。
木ノ機細工	二	八	九	三	三	一	一、一五。	二、七、二五	四〇。	一、三〇。
及彫刻細工	六	八	八	一	一	一	二、七、四。	五、五、四。	三六、六九。	六五、九八。
羊毛ノ梳製							一、九六、〇。	四二、五。	六一、五八二	一、三三、六二。
毛織物							三九	一一	一一九六、〇。	一三三、六二。



女工	資本	備料	材料	所産
一、三九一、八九八	二、三九一、三六五	四、四三、三五六	九、九八四	四、四〇〇
一、二三八、二五二	二、三、七〇一	四、三九、五一二	三、二七、三八一	九、九八四
一、三、四三〇、一九	九、〇、一五三	二、九、二二〇	二、九、二二〇	二、九、二二〇

百科製造物ノ惣表紀

製造ノ工	箇好ノ數	蒸氣器械ノ數	水車ノ數	工手ノ數	資本	備料	材料	所産	百科製造物ノ惣表紀	
									馬力	馬力
器械及製造ノ工	五三三	三三二	二二六	三三三	三、三九、八九九	三、九、三、六、五	一、五、〇	二、三、四、三、〇、一九	九、九、六	九、九、六
籃	二			三	三二〇	一、五〇	一、五五	二、三、四、三、〇、一九	九、九、六	九、九、六
鍛冶	八			三	三、七、〇	一、九、六、九、七	三、一、六、九、四	二、三、四、三、〇、一九	九、九、六	九、九、六
靴長靴	三六			二	三、八、五、九、五	二、五、九、五、〇	二、九、二、八、四	七、八、九、四、三	一、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇
煉化	一			三	一、二、〇	六、〇	三、〇	一、〇、〇、〇	二、八、七、〇	二、八、七、〇
箒把稿	二			三	七、五	五、〇	一、五、九、六	八、〇、〇、二〇	一、〇、九、二、七	一、〇、九、二、七
家屋建築	五二			七	一、三、二、八、〇	一、三、三、〇	四、二、四、八、五	一、〇、九、二、七	一、〇、九、二、七	一、〇、九、二、七
男衣裁縫	一〇			七	二、八、二、五	三、八、二	三、八、五	一、〇、九、二、七	一、〇、九、二、七	一、〇、九、二、七
桶	五			二	八、三	一、五	八、二	二、九、〇	二、九、〇	二、九、〇
木綿	三			四	四、三、〇、〇	六、三、〇	七、〇、五	一、六、八、〇、三	一、六、八、〇、三	一、六、八、〇、三
刃物	一			一	二、〇	一、一	二、〇	六、〇	六、〇	六、〇
鑄砲	三			一	一、二、〇	一、四、五	一、五、二、五	七、〇、〇	七、〇、〇	七、〇、〇
製粉車	七			三	四、三、〇、〇	四、九、三	五、八、二、九、五	七、八、二、八、四、六	七、八、二、八、四、六	七、八、二、八、四、六
家具	六			二	三、一、一、五	二、六、八、五	二、〇、二、九、一	六、四、五、八、一	六、四、五、八、一	六、四、五、八、一
製帽	一			二	一、〇、〇	一、一	八、〇	一、〇、〇	一、〇、〇	一、〇、〇
寶玉	二			三	三、一、〇	一、一	四、〇	二、〇、〇	二、〇、〇	二、〇、〇
消皮	三			二	二、四、六、〇	八、二、九	二、四、三、五、八	四、九、九、六、四	四、九、九、六、四	四、九、九、六、四
港皮	五			三	一、〇、七、〇	三、一、一、五	三、四、九、九、五	四、一、六、三、九	四、一、六、三、九	四、一、六、三、九
石灰	一			三	三、〇	一、〇	五、〇	五、〇	五、〇	五、〇
酒精類	一			四	六、〇、〇	三、〇	五、四、八	二、一、五、〇	二、一、五、〇	二、一、五、〇
釀酒	三			四	三、八、五	一、二、六	三、〇、九、四	四、一、三、五	四、一、三、五	四、一、三、五
鉛シタル板	一			二	五、〇	三、〇	六、〇	三、〇	三、〇	三、〇
鋸シタル板	九			三	三、三、八、五	一、三、九、五、三	二、六、六、〇、七	六、六、一、四、一	六、六、一、四、一	六、六、一、四、一
機關	四			三	三、八、〇	一、九、四、五	五、六、九	二、七、四、九	二、七、四、九	二、七、四、九
磨機製造	三			四	六、五	五、〇	九、五	三、八、〇	三、八、〇	三、八、〇
糖蜜糖汁	一			三	一、〇、九	三、二、五	九、四、一、九	二、〇、三、八、七	二、〇、三、八、七	二、〇、三、八、七
ペンキ塗り	二			三	三、五	一、〇	一、二、七、五	四、八、〇	四、八、〇	四、八、〇
印刷紙	一			四	一、五、〇	二、〇	一、〇、〇	四、三、三	四、三、三	四、三、三
燧石粉	一			七	一、五、〇	三、一、五	七、六	一、五、五、五	一、五、五、五	一、五、五、五
馬具	二			二	五、五、五	三、一、五	七、六	一、五、五、五	一、五、五、五	一、五、五、五
石灰塗り	二			二	七、五	一、一	七、五	二、一、〇	二、一、〇	二、一、〇
鹽	一			二	六、五	二、〇	二、四	七、八	七、八	七、八
戸引戸	三			二	九、一	三、八、五	四、〇、四	一、〇、〇	一、〇、〇	一、〇、〇
石器陶器	四			二	三、四	九、八	一、〇、二	二、六	二、六	二、六
錫銅錢板	五			六	六、六	三、〇	二、七、二	八、二、九	八、二、九	八、二、九
車造り	四			三	一、三、八、五	七、七、五	一、二、四、七、五	二、七、三、五	二、七、三、五	二、七、三、五
木、換、細工	二			三	一、一、五	二、五	四、〇	一、三、〇	一、三、〇	一、三、〇
及、彫、刻、細工	二			三	二、七、四	五、五	三、六、六	六、五、九	六、五、九	六、五、九
羊毛ノ梳製	九			四	一、九、六	四、二、五	六、一、五	一、三、三、六	一、三、三、六	一、三、三、六
毛織物	六			三	一、一、九	四、二、五	六、一、五	一、三、三、六	一、三、三、六	一、三、三、六





